

両郷地区市政懇談会

日 時：令和元年7月9日（火）午後1時30分～午後4時
会 場：両郷地区コミュニティセンター



懇談テーマⅠ 『安全・安心な地域社会について』

- ①少子高齢化時代の消防団のあり方、見直し、人員確保等について市の考えを伺いたい。
- ②災害時の避難行動と、緊急・非常時の今後の防災無線システムの在り方や防災情報伝達システムの構築について市の考えを伺いたい。

【回答】

①少子高齢化に伴う消防団の部の編成拡大や広域化等の見直しにつきましては、今後の課題とさせていただきます、消防団幹部と協議しながら対応させていただきたいと考えております。

②災害が発生する恐れのある時の避難行動につきましては、土砂災害に関する気象警報等が発表されたとき、土砂災害警戒区域等にお住いの方が取るべき行動は、命を守るための避難行動が必要となります。

今年5月29日より適用となった避難勧告等に関するガイドラインが公表され、警報に関しては警戒レベル3、土砂災害警戒情報に関しましては警戒レベル4と数字で表しておりますので、レベル3が発表された場合、高齢者等は自主的に避難を開始し、レベル4の場合は全員安全な場所に避難することで理解していただきたいと考えております。

防災情報につきましては、現在はアナログ方式の防災行政無線で防災や行政に関する情報を配信しておりますが、デジタル式の防災情報伝達システムを本年度から2箇年で整備することといたしました。このシステムにより消防庁のJアラートや気象庁の緊急地震速報等との連携が可能となり、従来の屋外拡声子局のスピーカーや戸別受信機もデジタル化されます。

また、このシステムは携帯電話の周波数を利用いたしますので、個人が所有する携帯電話によいメール等を通じて情報を配信いたしますので、携帯電話を所有している方のよいメール登録を推進してまいります。

懇談テーマⅡ 『安全・安心な地域社会について』

昨今、痛ましい事件・事故が多発し、いつ・どこで・何が起こるかわからない現状が続いており、市・地域・学校ぐるみでの、子どもたちの交通事故や犯罪からの見守りの見直し・強化が急務であるが、市や市教委の今後の対策を伺いたい。

【回答】

学校や警察などの関係機関とともに、適宜、通学路点検を行い、交通事故防止並びに防犯の観点から危険箇所における安全対策を行うとともに、交通危険箇所におけるカーブミラーやガードレールなどの交通安全施設の整備、登校時間帯における交通指導員の配置、児童生徒の交通安全教育のために学校に

おける交通安全教室を開催するなどして、交通事故の防止を呼びかけております。

また、防犯のために、青色防犯パトロールカーによる防犯パトロール、大田原警察署と連携して「よいちメール」による安全情報の発信、自主防犯団体に対する防犯用品の支給、防犯ボランティア保険加入を助成するなどして、地域全体での防犯意識の高揚を目指しております。

さらに、本市では、すべての中学校区にコミュニティ・スクールを導入して、地域とともにある学校づくりを推進しており、コミュニティ・スクールの導入と同時に「学校運営協議会」を組織し、安全・安心な地域社会に向けて、学校のみならず、地域として何ができるか、何をすべきか等について話し合うこともできます。

今後もこれらの活動を継続し、子どもたちの見守りを行ってまいりたいと考えております。

懇談テーマⅢ 『高齢者対策・医療・福祉について』

高齢者対策について、現在進められている「ささえ愛おたわら助け合い事業」、生活支援体制整備事業では、両郷地区は第2層協議体として位置づけられているが、市の高齢者対策について伺いたい。

【回答】

地域で元気に活動して、健康を維持してもらう。そのためには何が必要か、何をしたらよいかを地区内で話し合う場が第2層協議体であり、両郷地区の協議体会議におきましては、地域の課題や現状を把握しようとのことで、「いきいきクラブ」の会員さんを招いて意見をお聞きしたり、お金をかけずにできることや無理無く継続して取り組めることとして、グラウンドゴルフ場に手作りの休憩所を作ることを話し合ったり、昔、店先や縁側で繰り広げられたような「集いの場」を作ることを話し合ったりしていると聞いております。

現在市内12地区の第2層協議体で話し合いがなされており、その中から共通課題を見つけ出し各地区が活動しやすい制度を整えるために設置してあるのが、市全域を単位とする第1層協議体となります。

この第1層協議体、各地区の第2層協議体でそれぞれ話し合いをしながら進める事業として、「ささえ愛おたわら助け合い事業」、生活支援体制整備事業を位置付けております。

今後とも皆さまの地区の話し合いや活動が継続され、ますます結びつきの強い元気な両郷地区となりますことをご期待申し上げます。

懇談会でいただいた主なご意見等（一部抜粋）

両郷中央小の統廃合は今後何年度に行うという方向性があるのか。廃校の活用をどのように考えているのか。

【回答】

統合については、あくまでも地域の方々の合意が前提になりますので、地域の方々が残すという意味を持って地域に小学校を存続させるための努力を共にしていくのであれば、統合計画にこだわらず存続をさせるという考え方で答申が届いており、廃校利用等については今の段階では考えていないというのが現状です。

両郷中央小学校は学力に特化した小学校ということで、教育の見本の学校にしたいという考えもあります。行く行くは両郷中央小学校を核にして都会から皆さんに来ていただこうと、移住定住サポートセンターをお願いして、両郷中央小学校の子どもたちの学習状況をポスターにして都会に流すということを手配してやっております。

できるだけ空き家があったらそういったところを直して来ていただこうということで、人数をひとりでも二人でも増やしてやっぺいこうと、そのためには学力をうんと上げようということでやっております。

河川の清掃について、過疎化と高齢化で若い方がいなくなっている。河川清掃は危険も伴い、深みにはまったり、大きな石に刃をぶついたり、本当に危険な状態の中でやっている。

他所の地区では河川清掃はどのようにしているのか。できれば、重機を使った河川清掃ができないものか教えていただきたい。

【回答】

各地区でどのような状況でやっているかに関してデータがございませんので、後で確認しまして分かりましたらその状況はお知らせしたいと思います。

危険な箇所は無理をしてやらずに、できればやらないでいただいて、安全が確保できるところだけでもやっていただけると大変ありがたいと思います。

一級河川や二級河川は国の管理で、土木事務所が管理しており、計画的に機械を入れて業者に発注して浚渫をしております。一級河川ということでしたら場所をお知らせいただければ、土木事務所の方に要請をいたします。

芸術文化研究所（旧両郷中学校）のプールを防火水槽として利用できるよう整備していただきたい。

【回答】

プールの防火水槽としての位置づけですが、廃校になったあともそのように扱っているということは認識しており、整備にあたっては教育部と総合政策部で協議して対処したいと思います。

①イノシシの被害に関するアンケートの内容が毎年同じ項目のため、次回のアンケートのときに見直して欲しい。

②括り罾の補助とか箱罾の貸与とか、費用をかけて対策をして欲しい。

【回答】

①内容を確認して現実にあったような情報に変えていくという形で担当に指示します。

②今年度から狩猟免許取得については全額補助、猟銃の購入については二分の一以内で上限5万円の補助要綱を作り、新たに駆除をしていただける方を増やす施策を行っております。

箱罾については、市で2箇所かけましたが、実績としてこの地域ではかかりませんでした。

自治会と猟友会の方に確認しながら、箱罾が今後活用できるのであれば設置を検討していきたいと思っています。

デマンド交通について、家まで迎えに来ることはできないか。

【回答】

デマンド交通に関しましては、福祉タクシーとは別で、一般の公共交通という位置づけであり、乗り合いで目的地まで行くという観点で運用しております。

できるだけ利用者の近くのところの道路に停留所を設置するというような決め事でシステムがスタートしているところでございます。

他の地区と比べますと、登録者の約半分以上の箇所に停留所を設けておりますので、今のところはご了解をいただいて進めていきたいと考えております。